



## これぞ自然の神秘! レンソイス マラニャンセス国立公園

株式会社ラティーン

中南米最大の国 ブラジル。世界で5番目に広大な国土を持つこの国には、たくさんの魅力があります。

世界的に有名なりオのカーニバル、世界最高峰のレベルを持つサッカー、世界最大の熱帯雨林・動植物が生息するアマゾン、地球の裂け目の様にも見える世界最大の滝 イグアスの滝等々、その魅力を数え上げたらキリがありません。今回はそんな誰もが知っている魅力ではなく、ブラジルのイメージとは全くかけ離れた新しいデスティネーション「レンソイス マラニャンセス国立公園」をご紹介します。

### レンソイス マラニャンセス国立公園の概要



世界遺産 サンルイスの町並み



小型機内から見る景色、突然砂漠が出現

この「レンソイス マラニャンセス国立公園」は、ブラジル北東部のマラニオン州にあります。州都は世界遺産にも指定されている歴史的な町サンルイスです。ここへ行くには、小型飛行機で東へ260km移動し、国立公園のゲートシティ「バヘリーニャス」にまずは向かわなければなりません。

小型飛行機から見る景色は、ジャングルの中を蛇行する川ばかりが続きますが、30分程すると突如ジャングル地帯に砂漠地帯が出現! その光景は、まるで森に襲いかかる砂の波の様にも見えます。真っ白な砂丘のくぼ地に無数の湖が出来、その水が太陽の光を反射し真っ青に光輝き、それが数え切れないほどの帯状の模様を描き出す...といった幻想的な世界が眼下に広がります。



上空から砂漠地帯と湖群を望む



四輪駆動のトラックと国立公園に向かうデコボコ道

バヘリーニャス到着後は、車両の荷台に座席を固定し屋根をつけただけの四輪駆動のトラックで国立公園に向かいます。砂地のデコボコ道を上下左右に振られ、支柱にしがみつきながらの移動は決して乗り心地の良いものではありませんが、ちょっとアドベンチャーなところがワクワク感と重なりさらに冒険心を高めてくれます。

振られ揺られる事、約1時間20分。やっと「レンソイス マラニャンセス国立公園」(ラゴア・ボニータ:LAGOA BONITA)に到着です。

ラゴア・ボニータでは、まず膝丈ほどの池を渡り、急勾配の小高い丘を登りきると、そこには真っ白な砂丘に青々とした湖群、青と白の絶妙コントラストの大パノラマが広がります! ほとんどの人がしばしば言葉を失い、ただただ立ち尽くしてしまいます。まさに圧巻とはこの事です。

ここにたどり着くまでの道のりは決して短いモノではありませんが、この光景を目の当たりにすれば、それまでの疲れも吹っ飛びます! 何時間もかけて、それもただただ平坦な道のりをのんびりと移動して来た訳ではなく、小型機に揺られ、クッションの悪いトラックに乗り悪路を振られと、ちょっと厳しい思いをして来たからこそ得られる、ここでしか見る事の出来ない絶景なのです!

是非、その目でその目で確かめてみてください! 言葉を失い、ただ立ち尽くしてしまうという意味がおわかりいただける事でしょう。



絶景、レンソイス マラニャンセス国立公園



さてここからは、この絶景の解説です。

ここレンソイス マラニャンセス国立公園の「レンソイス」とはポルトガル語でシーツを、又、「マラニャンセス」はこの公園のあるマラニオン州を意味します。

この絶景「真っ白な砂丘」を白いシーツを広げた様子に例えているのです。そしてこの絶景を生み出す要素となっているのが、透き通る様な「白い砂」。この砂の正体は水晶やガラスと同じ成分の「石英」。

この石英が長い年月をかけて磨かれ、その一粒一粒が白い砂丘のもととなっているのです。そして乾季(7~12月)に吹き付ける強風によって大量の砂がここに運ばれ、急勾配の丘が出来、その凹凸に水が溜まって、初めてこの絶景が出来上がるのです。まさにここでしか存在しない「自然の驚異」としかいいようがありません。

又、現地の方の話によると、かつて陸続きであった南米大陸とアフリカ大陸が長い年月をかけて現在の形に分割した際、現在のサハラ砂漠の砂の一部が南米大陸にも移動し、現在のこの砂漠となっているという、何とも物語の様な説もあるとのこと...神秘的です。

今はまだ日本人旅行者はほとんどいない、注目のデスティネーションです。

この何ともブラジルのイメージからは程遠い神秘的「レンソイス マラニャンセス国立公園」に是非お越しいただき、永遠と続く真っ白な砂丘に青々と輝く湖群の絶妙なコントラストを思う存分堪能ください。

そして最後に...お問い合わせは(株)ラティーンまで、よろしくお願いたします。



砂の模様、湖には小さな魚の姿も

#### ★「レンソイス マラニャンセス国立公園」観光時のご注意

砂丘の気温はさほど高くありませんし、ゴミ等も落ちておりませんので、裸足で歩くのがよいでしょう。空が澄みきっている反面、日差しがとても強いので、くれぐれも帽子はお忘れなく。持って行くとよいもの: サンドル、帽子、日焼け止め、サングラス、カメラの砂よけ用ビニール袋、雨具、途中池を渡るのでショートパンツなど。



世界主要都市の「エース保険日本語サービスセンター」が安心の旅をお約束します。



日本サービスセンターへは、世界主要地域より直通の「フリーダイヤル」が便利です。

エースの海外旅行保険 <http://www.ace-insurance.co.jp>